



2023年度運営実績報告書

2023.4.1～3.30

一般社団法人 つちからみのれ

2022年3月25日開所後の取組

むむむ。はコミュニティモデルとして、まずはやれるところからスタートしようと、下記の5つの機会のうち、「体験」に力点をおきました。体験のテーマにむむむ。としての思いを込め、それを日常に生かすというサイクルを回してきております。

子ども 第三の居場所

5つの機会

「子ども第三の居場所」では、子どもたちの生き抜く力を育むため5つの機会を提供しています。

	安心	子どもたちが安心・安全に過ごせるよう、居心地のよい環境づくりに努めています。「ここに居ていいんだ」と思ってもらえるよう、まずは子どもたちのありのままを受け入れることから始めています。
	食事	おやつのみ提供
	生活習慣	挨拶、片付けなどは習慣づけていく
	学習	宿題を持参した子には、必要に応じて、助けながら進める
	体験	旅行、キャンプ、料理、音楽・プログラミング等の教室を通して、チャレンジ精神、自己肯定感、主体性、対人コミュニケーション等、「非認知能力」を育みます。

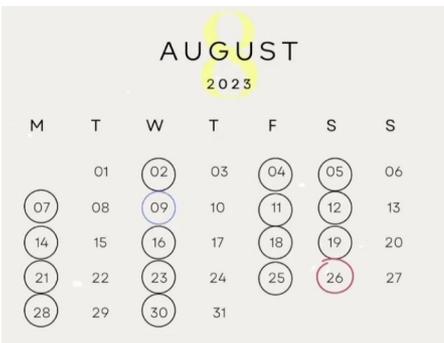
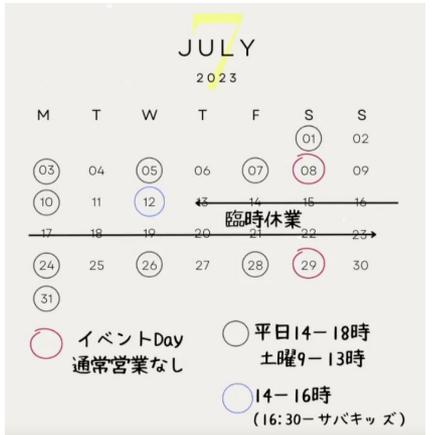
日常で体験を定着させる

安定の中に次の刺激(体験)を欲する

イベントとして新たに体験する場を創出

自分により合うものを見つける

1年間の開所の状況(平日：月水金、土曜はイベントもしくは通常の開所)



体験：イベントの様子

3種類のイベントを定期開催し、日常とは異なる、多様な場を創出。
一人一人、異なる子どもに、輝くチャンスのある場としてきました。



①レゴ遊び



②はなれで水鉄砲



③タコを味わおう



②みんなの森

①む。イベント(1回/月)
文化、テクノロジー多世代が
一緒になって楽しむ、学び合う

②むむむ。とおわせいく(2ヶ月に1回)
親子で自然体験、自然に親しむ (支援事業にて)

③サバキッズ(モリウミアス提供)(1回/月)
海の幸を親子で学び食す

日常について（～夏ごろ）



尾鷲ヒノキからレーザー加工機で作したむむむ。コインを来場者に全員にお渡します。
お菓子と交換したり、珈琲が飲めたり、集めたり..



告知のために、市内の全小学校、中学校、高校、保育園、未就学児の通う市の施設を訪問しました。

当初の来場者層としては、未就学児とその親が多く、尾鷲市としても、未就学児の遊び場がないという課題認識に対応するような形でスタートしました。



日常について（秋）



夏の酷暑、台風等で、外出しにくい時期は、利用者が減りましたが、徐々に、むむむ。のターゲットとしていた徒歩圏内の小学校に通う小学生が来てくれるようになりました。

宿題ができるように、元々あったヨギボー用の机を追加し、環境も整えました。

地元の高校生も少しずつですが、接点を持ち始め、未就学児～小学生～高校生～未就学児の親というところまで幅が広がりました。



日本財団の協力で、Googleから寄贈いただいたiPadは、日常、イベント両方で活躍しております。



左) マイクラに熱中。初めて触る子も友達に教えてもらいながら、同じワールドに入って、協力しながら”むむむ。”をつくってくれました

右) iPadで題材を探し、お絵描きイベントで購入した色鉛筆でお絵描き

日常について (冬)



12月くらいから、
地元の小学生の利用が更に増えました。

向井小学校(全校生徒21名)の半分くらい
の子が、来るようになりました。

作業ができるように尾鷲ヒノキの机
も追加しました。

室内空間は2つあるのですが、
みんなが集まっている方に
集まります。

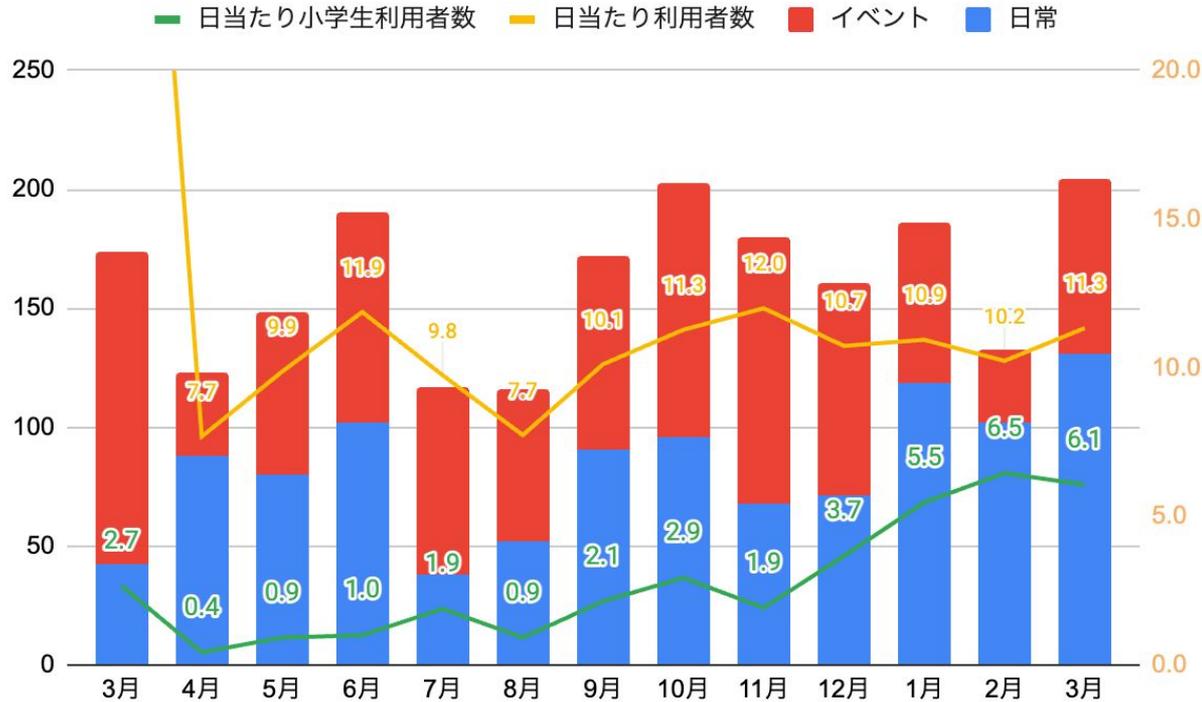
iPadでマイクラフトもしますが、
1時間のタイマーを設けているので
終わると、外で遊びだします。



左) 家ではできないサイズの
段ボールで工作中

右) はなれまで、カートを使う
こともありますが、
歩いて行きたい！と言って
車が通らない道を歩くこと
もあります

2023年度のまとめ



開所～3月末まで
延べ1993名の方に
利用いただきました。

日常の利用者が増えるとはなれの積極的な活用が望まれるのはなれの過ごし方も充実させていきたいです。

- 日常の開所(青色)については、**夏に減った**が、その後、徐々に増加。
- 日当たり利用者は10人/日で推移しているが、**利用者の層は、変化**。
当初は未就学児+母親であったが、12月以降は、小学生メイン(緑折れ線)。
- ソーシャルカウンセラーを通じた、中学校の訪問を行ったり、向井地区の小学校全教諭との対話も実施し、**ステークホルダーとの関係を強化**。

2024年度の取り組みについて

● 利用者を増やすための仕掛け

<新規利用者:知名度は上がったが、来てみようとなるための一押し>

- ・新年度のタイミングでの学校訪問で紹介用ビラ配布
- ・1人だと行きにくい、友達同士誘い合わせて参加できるようなイベントの企画

<リピート利用者:もっと頻度上げて利用してもらうために>

- ・むむむ。イベントを利用者と一緒に作る
- ・むむむ。の運営をお手伝いしてもらうネタの準備
(対価としてむむむ。コインをお渡し)
- ・むむむ。だからできる”コト””モノ”のアイデアを実現させる

● 困難児童へのリーチ

- >教育委員会、市役所福祉保健課との連携継続
- >ソーシャルカウンセラーとの連携継続(23年2回打ち合わせ)

● 法人としての財源確保

- >次年度の補助率80%に向けての備え
- >安定した自立運営に向けての戦略立案、試行